

## 編集後記

■本号より編集委員長を務めます重吉です。発行が遅くなり申し訳ありません。重吉の怠慢のせいではありますが、いいわけさせていただくと編集作業の過程がよくイメージできていなかった。こんなに手間がかかるものか。カラバトのように胸をふくませながら時間生物学会誌が届くのを心待ちにされていた方もいらっしゃると思います。繰り返してお詫び申し上げます。

■前号で「後任は、誰もが認める有能なる重吉康史先生にお任せします。」と前編集長の岩崎先生からエールをいただきました。ありがとうございます。しかし岩崎先生が担当していた芸術品としての価値のある表紙などまねができるわけありません。継続して表紙はお引き受けいただけるとのことありがたいと思います。それにしても岩崎先生よくやったなあ。今号のように薄い会誌でも雑誌発行にいたるまで予想外に手間がかかりました。岩崎先生ほとんどおひとりでこの大変なお仕事を愚痴することもなく長らく努められました。会員を代表しまして御礼申し上げます。ちなみに今号のこまごまとした編集仕事のほとんどは部内編集委員である、吉川、池上に丸投げでした。すまぬ。

■総説原稿ありがとうございます。藤堂先生、藤原先生にはクリプトクロームの分子機構、とくに電子移動を含めた側面まで踏みこんで詳細にご説明いただきました。さらに全く異なる現象に見えるDNA修復と概日リズムが、統一したロジックで説明される可能性についても述べられております。濃い霧で覆い隠された未踏の秘境にも日が差そうとしている。冒険者に乾杯。原田先生、竹内先生のご総説ではいかにして、生活リズムを正常に保ちそれを定着するかという明瞭な指向性をもつご研究を紹介いただきました。ヒトを対象とした研究がやりにくくなっているなか、貴重なデータ満載です。私も不登校の子どもさんの診療に当たっています。大変参

考になります。ありがたやです。

■奨励賞受賞者論文ありがとうございました。遠藤先生、小野先生ともおのおの研究内容ばかりではなく、大きな業績にいたるまでの葛藤や使命感、そして研究の喜びを表現いただきました。また、学会参加記、楽しく拝読いたしました。学会で質疑応答し、懇親会でただひたむきに学問の話をするのが喜びであったあのころを思い出しました。若手リレーエッセイもまだまだ熱く続きます。こういった“個人的な話”は楽しいですね。

■編集担当第一号なので個人的なことを少々。現在兵庫県の芦屋という小さな市に住んでいます。高級住宅地ということで全国的な知名度のある土地らしい。しかし私が住んでいるところは海に近い景観に統一感のない下町です。(山すそになるとセレブ感がでてきます。外国車しか通らない電柱のない町があったりします。)。村上春樹氏も大学までは近所で過ごされていたようで、芦屋市の公立中学校の先輩にあたります。(ただ村上氏、この中学はあまり合わなかったようです。よく教師に殴られたらしい。そういえば私もなぐられたぞ。)。ちなみに今の時間生物学会理事長さんも東京都知事さんも芦屋の出身です。稀勢の里関も芦屋で二歳まで過ごされたとのこと。若い頃はこの町のぬるく甘ったるいココアのような味わいが苦手だったのですが、今ではなじんでしまいました。湿った浜風にあたっているうちに私自身が錆び付いてしまったのかもしれない。まあこれも運命です。

■次号から文献の引用様式を少し変更します。編集作業の簡便化のためです。ご理解いただけましたら幸いです。笑顔になる学会誌を目指し尽力いたしますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

(重吉)

時間生物学 Vol. 23, No. 1 (2017) 平成29年 5月31日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所  
吉村崇研究室内

TEL/FAX : 052-789-4069

Email : [chronobiology.jp@gmail.com](mailto:chronobiology.jp@gmail.com)

(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

近畿大学医学部解剖学

重吉康史研究室内

TEL : 072-368-1031

Email : [shigey@med.kindai.ac.jp](mailto:shigey@med.kindai.ac.jp)

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部